

令和2年度 第1回 地域包括支援センター運営協議会

(村上 地区)

コロナ禍での業務について（自由記載）※運協委員に報告したいことなど

※資料2参照

- ・事業対象者等に電話や訪問をすると、大変喜ばれた。集まりの場もなく、遠方に居る親族も帰省できない中、自分の存在をわかってくれる、心配してくれる人が居るということが、心の支えになることを実感。
- ・遠方の親族から、「帰省ができないので、一人暮らしの親の様子を見てほしい」という要望あり対応。
- ・9月から介護予防教室を再開したが、転倒予防教室については集落の考えで未実施のところもある。また、開催しても「定期的に足を運ぶリズムが崩れ、出かけるのが億劫になった」と、参加者も少ない状況である。

むらかみ互近所ささえ～る隊活動報告について（自由記載）

〇5つの地区（村上・岩船・瀬波・山辺里・上海府）別で、自治会を単位とした「ご近所同士の身近な助け合いのしくみづくり」について普及啓発活動を実施。また、各地域まちづくり協議会委員や事務局と情報共有を行い、協働できる取り組みは一緒に進める。

- ・村上地区：村上で一番自治会数が多い。地道に自治会への周知活動を行う。今年度は山居町1丁目で実施。そのほか、毎年定例でまち協の生活安心部会委員との情報交換会を実施。
- ・岩船地区：まち協の源内塾利活用部会との協働で、「岩船のお茶の間」を開催していたが、今年度は新型コロナウイルス感染症と改修工事の関係で未実施。まち協会長・副会長含め、情報交換会実施。「いわね助け合いカタログ」を作成。
- ・瀬波地区：高齢化率の高い3町内でタクシーを活用した「買い物支援」を実施に向けて検討中。実態把握のためのアンケート調査により、対応策を検討する。
- ・山辺里地区：防災出前講座を題材に、お互いさまのまちづくりを考えるきっかけとしたいが、今年度は集落単位で集まることもできていない状況であり、来年度地区全体への働きかけを検討したい。
- ・上海府地区：昨年度も集落座談会を実施した馬下集落を対象に、自治会役員と全世帯アンケート集約結果なども含め、安心して住み続けるために、「集落であつたらいいしくみ」について検討を行う。

〇第1層の村上市互近所ささえ～る隊

5月：ささえ～る隊通信の発行…外出自粛が続く中、ささえ～る隊として地域の困り事や地域資源（良いところ）を発見する機会とした。

7月：第1回目の会議開催…メンバーの交代もあり、改めて「地域包括ケアシステムについて」および「互近所ささえ～る隊の目的やこれまでの活動」等について説明。

移動支援について、今年度は積極的な聞き取りをせず、現在市で実施（社協ヘルパーに委託）している「要援護者老人安否確認業務」の訪問時に、移動についての聞き取りを追加し、現状把握することとした。今後は、次年度に向け、聞き取り内容を検討する予定。

11月：介護予防講演会にて市内の事例を傍聴する。